

marie claire

marieclairejapon.com

24th April, 2025
No.196

Embrace
Beauty

新しい美しさ、今ここに

本サービスを利用した営利目的の活動行為、
あるいは本サービスを通じて入手した情報を
複製、販売、出版その他
私的利用の範囲を超えて使用する行為の
一切を禁止します。



Welcome to marie claire vol.196

フ

アッションは時代を映す鏡だといわれます。ミラノ・ファッションウィーク期間中にアメリカのホワイトハウスで開かれたウクライナのゼレンスキー

大統領とトランプ大統領との会談は、大きな波紋を引き起こし、ヨーロッパでは「第三次世界大戦がはじまるのでは?」といったような論調まで出てきています。こんな不安に満ちた時代の雰囲気をデザイナーたちはどう受け止めているのでしょうか? また昨年から続いている多くのブランドでのデザイナーの退任や就任に関わるニュースは留まるどころを知らず、さらに広がっています。そんな状況の中で2月25日から3月3日まで開催された「2025年秋冬ミラノ・ファッションウィーク」。思いのほかデザイナーやブランドの個性を強く感じさせるショーが多く見られ、また使用された素材にも新しい試みや数シーズンぶりに復活したものもあり、興味深く、魅力的なファッションウィークとなりました。

印象に残ったブランドをいくつか紹介させていただきます。ブランド設立100周年を迎えた「フェンディ」のコレクションは、シルヴィア・フェンディがブランドの持つ華やかさ、エレガンス、職人技をグラマラスに表現。ブランドの原点であるファーを大胆に使用してブランドのアイデンティティを際立たせて表現していたのには驚かされました。

「プラダ」はドレスには普通使用しないような素材を使って、切りっぱなしの裾やネックラインで「リトルブラックドレス」を表現、現代の世界をおおむ不安感を表現しました。

今回が最後のコレクションとなる「ジルサンダー」のルーシー&ルーク・メイヤー夫妻は華やかな装飾と異素材の組み合わせで、混んとした時代での希望の光を表現。ブランドを去っていくのが惜しまれる印象を与えてくれました。

「フェラガモ」は舞踏家のピナ・バウシュからインスピレーションを受け、装飾性のないボディスーツにジャージーのコートやジャケットをあわせ、洗練されたミニマリズムを見せてくれました。

このところクリエイションでもビジネスでも好調な「トッズ」は、コレクションの前に、ニコラ・サルコジ元フランス大統領の妻でありモデル兼歌手のカーラ・ブルーニが、レザーの女王のような姿でショーに来た招待客を迎えていました。コレクションでは上質なレザーを使ったトレンチコートや、スカートがバルーン状になった

チューブトップのワンピースが印象に残りました。

「マックスマラ」のイアン・グリフィスは、英国の作家ブロンテ姉妹の作品からインスピレーションを受けたそうで、フロックコートやスカートはボルドーやダークブラ

ウンでまとめられ、ロマンティック感を出していました。英国調、クラス感は今シーズンの大きな流れのようです。

話題の「グッチ」は、デザイナーの退任発表からわずか3週間しかたっていないにもかかわらず、デザインチームが1960年代、1970年代の雰囲気溢れるスーツやコートをグリーン1色で飾られた会場で発表しました。コレクション終了後発表された「グッチ」の新クリエイターは「バレンシアガ」のデムナ・ヴァザリア。新生「グッチ」に期待したいと思います。

上質な素材に妥協のない丁寧な作り、そして全体に流れるエレガントさ、といった点がミラノ・ブランドに流れるDNAであり、魅力でもあります。今回強くミラノ・ブランドのDNAを感じさせてくれたのは「ロロ・ピアーナ」と「ブルネロ クチネリ」。この2ブランドに共通したのは乗馬というテーマ。特に「ロロ・ピアーナ」は最高級の素材を使いアルゼンチンの民族衣装と英国の乗馬スタイルを融合し、現代的にアレンジしたコートやジャケットを展開し、イタリア流のエレガンスを表現しました。また「ブルネロ クチネリ」はぜいたくさの中にブランドの持つ軽快さを「乗馬スタイル」をテーマに表現、ぜいたくで魅力的なコレクションとなりました。

混んとする社会情勢、不穏な空気にあふれるヨーロッパですが、ミラノはミラノのアイデンティティをしっかり意識し、仕事を続けることで不安感とは一線を画すという姿勢が、今回のコレクションからは強く感じられました。

2025年4月24日



Fendi PRADA Jil Sander ferragamo



TOD'S TOD'S Max Mara GUCCI Loro Piana Brunello Cucinelli

田居克人

Katsuto Tai, marie claire 編集長

marieclairejapon.com



Welcome to Our Site!

Contents

- 7 Welcome to marie claire /
- 8 Cover Story: Pom Klementieff /
- 11 Art /
- 13 marie claire international /
- 14 Style Picks: Sail Away /
- 15 Style Picks: Basket Bag /
- 16 Style Picks: Full Bloom /
- 17 Les Prix d'Excellence de la Beauté Marie Claire 2025 /
- 20 Beauty: Early Summer make up /
- 22 RIMOWA /
- 23 News, shop list

cover

photo: ©2023 PARAMOUNT PICTURES.

marie claire

2025年4月24日発行 第14巻 第4号(通巻196号)

発行人 Publisher:
安部順一 Junichi Abe

編集長 Editor in Chief:
田居克人 Katsuto Tai

デジタル編集長 Editor in Chief Digital:
宮智 泉 Izumi Miyachi

アートディレクター Art Director:
木村裕治 Yuji Kimura

ビジネス スペシャリスト Business Specialist:
斉賀明宏 Akihiro Saiga

副編集長 Deputy editor:
大林理子 Riko Obayashi

編集部 Editorial Team:
高波麻奈美 Manami Takanami
マルチンバイヤル ホストツェグ
Malchinbayer Khostsetseg
岩崎芽衣 Mei Iwasaki

パリ特派員 Paris Correspondent:
須山佳子 Keiko Suyama

デザイン Design:
木村裕治 Yuji Kimura
佐藤 幹 Miki Sato

発行 Publication:
読売新聞東京本社
〒100-8035 東京都千代田区大手町1-7-1
tel: 03-3216-8815
THE YOMIURI SHIMBUN

印刷 Printing:
共同印刷
KYODO PRINTING CO.,LTD.

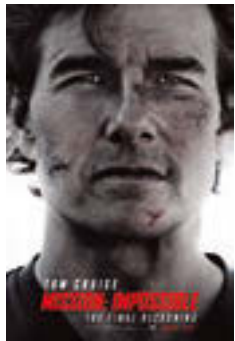
MARIE CLAIRE INTERNATIONAL

Executive Director:
Jean de Boisdeffre
International Deputy & Finance Director:
Felix Droissart
International Brand Director:
Nicia Rodwell
Chief Content Officer:
Galia Loupan
Chief Digital Officer:
David Jullien
International Fashion & Beauty Chief Editor:
Florence Deladrière
Senior International Brand Manager:
Céline Hananel
International Editorial Coordinator:
Marie Bazin
Global Partnerships / Media solutions:
Magali Riboud (Agence Riboud)
Foreign right Commercial:
Thibaud le Paix
Licensing Manager:
Stephanie Ertzbischoff
Iconographer/Photo library:
Isabelle Teboul

©MARIE CLAIRE ALBUM 2025
©THE YOMIURI SHIMBUN 2025
本誌掲載の記事・写真、イラストの無断転載を禁じます。
※本紙に掲載されている商品の価格は
特記されている場合をのぞき、すべて税込みです。



トム・クルーズ演じるスパイ組織IMFに所属する主人公イーサン・ハントと、彼率いるチームの活躍を描く大ヒットシリーズの最新作。シリーズの最後か、それともイーサンの最期か、“ファイナル”に込められた真意が明らかとなる。ボム・クレメンティエフは前作に続き、パリス役として登場。



『ミッション:インポッシブル／ファイナル・レコニング』

監督: クリストファー・マッカリー

出演: トム・クルーズ、ヘイリー・アトウェル、
ヴィン・ディーズ、サイモン・ベック、
ヴァネッサ・カービー、イーサン・モラレス、
ボム・クレメンティエフ、マリエラ・ガリガ、
ヘンリー・ツェニー、ホルト・マッキヤラニー、
ジャネット・マクティア、ニック・オフアーマン、
ハンナ・ワディンガム、アンジェラ・バセット、
シェー・ウィガム、グレッグ・ターザン・デイヴィス、
チャールズ・バーネル、フレデリック・シュミット
日米同時公開: 5月23日
原題: Mission: Impossible
- The Final Reckoning
配給: 東和ビクター
公式サイト: missionimpossible.jp
©2025 PARAMOUNT PICTURES.

努力を重ねて夢を実現 話題作で存在感を発揮する ボム・クレメンティエフ

Pom Klementieff

トム・クルーズ主演の大ヒットシリーズが放つ最新作『ミッション:インポッシブル／ファイナル・レコニング』が、ついに5月23日より日米同時公開。前作で冷酷無慈悲な暗殺者パリスを演じ、強烈なインパクトを残した俳優ボム・クレメンティエフの魅力に迫る。

photos: ©2023 PARAMOUNT PICTURES. (P.8)
Interview & text: Masami Shimura

2023年の『ミッション:インポッシブル／デッドレコニング』でシリーズ初参戦を果たし、話題を呼んだボム・クレメンティエフ。『ガーディアンズ・オブ・ギャラクシー』シリーズのマンティス役でも知られているが、本作ではミステリアスなヴィランとして圧倒的な存在感で観客を魅了した。

「私はみなさんに色々な解釈をしてほしいので、ミステリーの部分を残しながら演じています。パリスは怒りや悲しみだけでなく、復讐心を抱えている人物。物静かでありながら、いきなりすべてを破壊するほどの爆発力も持ち合わせているので、演じていて面白かったです」

ボムのアクションも見どころの一つだが、前作よりもファイトトレーニングを強化し、さらなる進化を遂げている。そんな彼女にとって欠かせない人物と言えば、ほかでもないトム・クルーズだ。

「彼は映画に対する愛をみなにもシェアしてくれますし、若い才能を信じてくれる寛大さもあるので、俳優としても共演者としても素晴らしい方。あれだけ忙しいのに、アドバイスを欲しいときにはいつでも電話に応じてくれるからです。しかも、昔のことでも細かいことでもすべてを覚えている記憶力もあるので、本当に特別な人だと思いました」

『ミッション:インポッシブル』シリーズへの参加は長年の夢でもあったため、決まったときは思わず叫んでしまったというが、ボムが本作へ出演できたことは当然のように感じる。

「夢を叶えるレシピは人によって違いますが、私はどんなときも努力を惜しまず、眠りにつくときでさえそのことについて考えてきました。でなければ、いきなり夢が実現することはないですから。私はキャスティングされる前からトレーニングを続け、つねに最高の状態で臨めるようにしてきました。時間をかけて準備をすることは、すごく大事だと思います」

美しさと強さを兼ね備える彼女が日々意識していること、そしてモチベーションの源とは？

「自分の体が自分に伝えようとしていることには、耳を傾けるようにしています。あと、人生において重要なのはバランス。何かをやりすぎると感じたら、一呼吸おいて立ち止まるように心がけています。新たに学ぶことも、他者から教えてもらうことも好きなので、不可能だと思うことにも挑戦していきたいです」

幼少期に2年ほど京都に暮らしていた経験があるため、「日本が大好きでまた住みたい」と笑顔を見せていたボム。いつか日本の作品でもその魅力を発揮してくれる日が来るのではないかと期待が高まる。

1986年にフランス＝ロシア人の父親と韓国人の母親のもとにカナダで生まれたのち、19歳でパリの演劇学校に通い始める。2007年の『Après lui』(原題)でカトリーヌ・ドヌーブの娘役としてスクリーンデビューを果たすと、2013年にはアメリカに進出。『ガーディアンズ・オブ・ギャラクシー』シリーズなどに出演している。



ファッションと自意識、手仕事とフェミニズムの関係

長い歴史の中で、布や衣服は身体を保護する実用にとどまらず、身分や個性、文化を表現する社会的メッセージを表現し、また、感情や心持ちに少なからぬ影響を与える媒体として複雑かつ多様に進化してきた。

現在、開催中の二つの展示は、ファッション、そしてテキスタイルを通して私たちのありようについて考える、またとない機会になっている。

text: Mutsuko Ota



蟹座 Cancer 6月22日→7月22日 ★ 人脈の幅を広げてみよう。広いネットワークの繋がりがから良いアイデアが生まれてくる予感。お仕事でもチャンスが来やすい。好き嫌いでお付き合いの範囲を狭めないよう注意して！



双子座 Gemini 5月21日→6月21日 ★ あなたの思考機能が絶好調に働く時。ただ5月前半は必要以上に人の目、評判を気にしないこと。5月27日の双子座の新月ではこれから半年を目前に目標を掲げてみることに！



ドレス(ローブ・ア・ラ・フランセーズ)(部分)
フランス 1775年(テキスタイル 1760年代) 撮影: 島山崇



松川朋奈《それでも私が母親であることには変わらない》
2018年 個人蔵 撮影: 加藤健



Loewe ドレス(部分)
2022年秋冬 撮影: 来田猛



Comme des Garçons (川久保玲)
トップ、パンツ 2020年春夏
撮影: 来田猛



AKI INOMATA
《やどかりに「やど」をわたしてみる
-Border-》
2010/2019年
京都国立近代美術館蔵

Exhibition

布仕事欲望としての装いになるまで

装

うことは自己表現やアイデンティティ形成にいか
に寄与するか——「LOVEファッション—私を着
がえるとき」展は、京都服飾文化研究財団(KCI)が所蔵する
衣装コレクションを中心に、現代アートを絡めながら、人の欲望
を表現した章立てで構成される。例えば、「自然にかえりたい」
では、毛皮や花柄のファッションを通じて自然への憧れを表
現。「きれいになりたい」では、コルセットやオートクチュールなど
を通じた美への追求を探り、さらに「ありのままでいたい」「自由
になりたい」「我を忘れたい」と五つの章へ展開されていく。

一方、「ゾフィー・トイバー=アルプとジャン・アルプ」展では、
20世紀前半を代表する芸術家カップルであるゾフィー・トイ
バー=アルプとジャン・アルプの創作を紹介。ダダイスムに共鳴
したゾフィーは、伝統的な芸術表現にとらわれない実験的な幾
何学の抽象作品を生み出していくが、同時代にバウハウスで
活躍したアンニ・レップバラ同様、そのスタートは布や刺繍を用い
たテキスタイル・デザインだった。

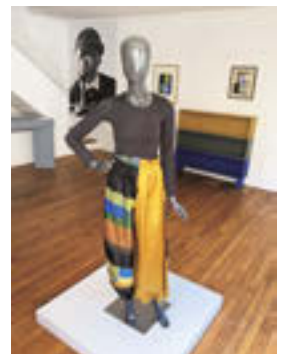
そうした背景には、織物や刺繍、裁縫は従順さや忍耐、純粹
さを象徴する女の仕事とされてきた長い歴史があり、逆に19
70年代以降のフェミニズム・アートの中では抵抗の手段とな
る。その後も、ルイズ・ブルジョワや塩田千春らの布や糸を用
いて個人の記憶や感情を表現する作品に脈々と息づいてい
るが、これら二つの展覧会は、今日の布や衣服にまつわる女
性たちの思いや、女性アーティストの活動を考察する上で豊か
な視点を与えてくれる。



ゾフィー・トイバー=アルプ《抽象
的なモチーフによる構成(手
帳カバー)》1917-18年頃、
アールガウ州立美術館、アーラ
ウ(個人より寄託)



《「ダダ・ヘッド」とゾフィー・トイ
バー》1920年、アルプ財団、ベル
リン/ローラントシュヴェルト
撮影: ニック・アルプ



ゾフィー・トイバー=アルプ《パッチワーク
のズボン》1920-24年、アルプ財団、ク
ラマール



ゾフィー・トイバー=アルプ《オーベットの200(ストラ
ブルのオーベットのバーの天井デザイン)》1927
年、アルプ財団、ベルリン/ローラントシュヴェルト

Exhibition data

「LOVEファッション—私を着がえるとき」

会場: 東京オペラシティ アートギャラリー
住所: 東京都新宿区西新宿3-20-2
会期: 6月22日(日)まで
休館日: 月曜日(4月28日(月)、5月5日(月・祝))は
開館、5月7日(水)
開館時間: 11:00~19:00
料金: 一般/1,600円 学生/1,000円
問い合わせ: 050-5541-8600
<https://www.operacity.jp/ag/>

「ゾフィー・トイバー=アルプとジャン・アルプ」

会場: アーティゾン美術館6階展示室
住所: 東京都中央区京橋1-7-2
会期: 6月1日(日)まで
休館日: 月曜日(5月5日(月・祝))は開館、5月7日(水)
開館時間: 10:00~18:00(毎週金曜日は20:00まで)
料金: 一般/ウェブ予約チケット 1,800円、窓口販売チ
ケット 2,000円 学生/無料(要ウェブ予約)
問い合わせ: 050-5541-8600
<https://www.artizon.museum/>

現在、世界30ヵ国で出版、配信されている『marie claire』。
その最新記事から気になる話題を厳選してお届け。
今月は、フランス版からファッション、
カルチャー、ビューティにまつわる記事をご紹介します。

translation & text: Yoko Ooka



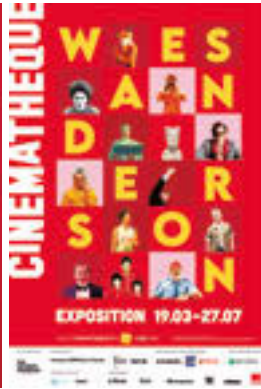
乙女座Vingo 8月23日→9月22日★自分の心の声としっかり向き合ってみる機会到来。誰かとシェアせず自分を掘り下げて集中してみよう。自己探求の末には長期的に自分が関わっていききたいものが見つかる予感。



獅子座 6月7月23日→8月22日★邪魔されることなく大胆に行動できる機会が増える！5月25日には現実化、長く携われることを促す土星があなたの学びの部屋へ。スケールの大きな知的な活動や海外にも縁ができる時期。



フランス版4月号に掲載された「Wes style story」の記事



パリのシネマテーク・フランセーズで7月27日まで開催されているウェス・アンダーソン監督の展覧会。
本展では彼のデビューから最新作までの進化を辿る

from marie claire FRANCE

セレブに愛される 「スリークヘア」が今熱い

今 季の注目「スリークヘア」は、セレブのお気に入りの髪型。スリークは、「艶のある」という意味で、髪をぴったりと整えるこのスタイルは、様々な形で2025年春夏のランウェイに登場した。「サンローラン」では低めのシニオン、「エルメス」では幾何学的な分け目、「オフホワイト」では後ろに引いたスタイル、「マックスマラ」ではダブルのお団子ヘア、他にもバレリーナ風や前髪にボリュームを持たせたスタイルも話題に。「スリークヘア」は、ヌードメイクのヘア版。どんな場面にも対応できる」と、パリの人気ヘアスタイリストのダヴィッド・マレット氏は語る。ポイントはまさに仕上げに艶を出すこと！

Gilbert Flores / Getty Images



Jason Armond / Getty Images



<上>フランス版4月号で掲載された「Sleek Hair(スリークヘア)」の記事

<左>今年のアカデミー賞授賞式でも「スリークヘア」がセレブに人気。ガル・ガドット(左)とマイキー・マディソン(右)



styling: Mutsuko Matsukawa
text: Miyuki Kikuchi

1.Dior タイムレスでモダンな「ディオール ポビー」バッグから、ラタン素材にホワイトレザーをあしらった上品なサマーバッグがラインナップ。バッグ「ディオール ポビー」 [W22.5×H17.5×D6.5cm] ¥820,000 (ディオール／クリスチャン ディオール) **2.Gucci** GGパターンを大きく配したストロー素材に、レザー仕立てのハンドルをあしらったトートは、取り外しOKなポーチ付き。バッグ [W26×H28×D26cm] ¥506,000 (グッチ クライアントサービス) **3.Miu Miu** 軽やかで夏のムードを高めてくれるクロシェ編みのカゴバッグ。スカフやパンダナをインナーに敷いてアクセントを付けるのも◎。バッグ [W23.5×H18×D9cm] ¥319,000 [予定価格] (ミュウミュウ／ミュウミュウ クライアントサービス) **4.Saint Laurent** 落ち着いたトーンのラフィアとレザーのコンビにカサンドラロゴがアイコニック。シックな表情が大人好み。バッグ「ルトロントセット」 [W20×H25×D16cm] ¥484,000 ※ショルダーストラップ付き (サンローラン バイ アンソニー・ヴァカレロ／サンローラン クライアントサービス) **5.Jimmy Choo** 燦々と降り注ぐ太陽の光にマッチするレインボーカラーのラフィア風バッグは、夏のバカンスに欠かせないアイテム。バッグ「ビーチ ダイヤモンド ホーボー」 [W43×H40×D18cm] ¥156,200 (ジミー チュウ) **6. Loro Piana** ボディに使用しているのは植物の芯から採取した貴重な素材「ウィッカー」。職人が丁寧に仕上げるタイムレスで上品な逸品。バッグ「ボビン・バケットバッグ」 [W21×H16×D13cm] ¥970,200 (ロロ・ピアーナ／ロロ・ピアーナ ジャパン) **7.Marni** コンパクトながら抜群の収納力を叶えるトートバッグ。コントラストの利いたブルーのマキシストライプが目を引き。バッグ「トランカール」スモール ビーチバッグ [W42×H25×D14cm] ¥129,800 (マルニ ジャパン クライアントサービス) **8.The Row** ユニークなデザインと機能性を兼ね備えたラフィアバッグは、すべてハンドメイド。内側に巾着仕様のコットンライニングを施し、中に入れたアイテムの落下防止にも効果的。バッグ「ソル」 [H20cm (実寸) *W, Dは個体差あり] ¥119,900 (ザ・ロウ／ザ・ロウ・ジャパン) **9.Loewe** 「ロエベ バウラスイザ 2025」コレクションから登場した、ラフィア素材で編みこんだ「ハチ」と「ハチの巣」を表現したユニークでキュートなミニバッグ。バッグ「ビー・ハイブ バスケット」 [W14×H17.5×D14cm] ¥172,700 [予定価格] (ロエベ／ロエベ ジャパン クライアントサービス)

marieclairejapan.com



styling: Mutsuko Matsukawa
text: Miyuki Kikuchi

1.Louis Vuitton 海辺のエLEGANSを表現した「ノータリカル」コレクションから、プリーチ加工したモノグラム・デニム パターンのバッグが登場。ヴィンテージ風の魅力を出す深いピンクが可憐な表情。バッグ「サンセット」 [W27×H18×D3cm] ¥449,900 (ルイ・ヴィトン／ルイ・ヴィトン クライアントサービス) **2.Fendi** 今季のシグネチャーデザインの赤珊瑚モチーフ。ビーチやシティで軽やかに揺れる耳元を楽しんで。ピアス「フォーエバー フェンディ コーラル」 ¥145,200 [予定価格 ※5月上旬発売予定] (フェンディ／フェンディ ジャパン) **3.Chanel** ダブルCがアイコニックでコレクター必見のハンドボード。手に持っているだけでキャッチーな印象に。ハンドボード ¥996,600 [予定価格] (シャネル／シャネル カスタマーケア) **4.Dior** ショルダー部分のレースアップで捻りを利かせたデザイン。コットンリブを使用した上品なボーダートップスはエフォートレスに楽しめる一着。セーター「ディオール マリエール」 ¥380,000 (ディオール／クリスチャン ディオール) **5.Hermès** 馬具をモチーフにしたスカフ柄「ブリッド・ドゥ・ガラ」にインスパイアされたプリントとテラコッタカラーで、ぐっと大人のマリンスタイルへと昇華。靴「カリス」 [H9.5cm] ¥319,000 (エルメス／エルメスジャパン) **6.Celine** ボーダー柄に「セリヌ」のロゴを大胆にあしらったジップコンバートメント付きのポーチが登場。コイン&カードポーチ [W13×H9×D1cm] ¥53,900 [予定価格、5月6日まで阪急うめだ本店ポップアップストア限定] (セリヌ／セリヌ ジャパン) **7.Bottega Veneta** 小さなサーディンハンドルをあしらった陶器のようなバッグはネックレスにしたり、バッグに付けてチャームとして楽しんだり自由自在にバッグ [W9.5×H6×D3.5cm] ¥1,127,500 ※ボッテガ・ヴェネタ 麻布台ヒルズ先行発売 (ボッテガ・ヴェネタ／ボッテガ・ヴェネタ ジャパン) **8.Chloé** ヴィンテージゴールドブラスを使用した大ぶりの貝殻モチーフのネックレス。サマードレスやシンプルなTシャツに大胆に纏いたい。ネックレス「クロエ シェルズ」 ¥176,000 (クロエ／クロエ カスタマーレレーションズ)

marie claire

PRIX
D'EXCELLENCE
DE LA BEAUTÉ
2025

Les Prix d'Excellence de la Beauté Marie Claire 2025

2025年度 マリ・クレールボーテ大賞発表！

世界中に数あるコスメ大賞の先駆けとされ、コスメ業界のアカデミー賞とも称されている「マリ・クレールボーテ大賞」。39回目となる今年も、世界各国のジャーナリストらが審査に参加し、イノベーション（革新性）、テクスチャー、デザイン面などから厳正なる審査を実施。革新的なヘアドライヤー、美肌を叶えるセラム、優秀なファンデーションなど、数多くの刺激的な新製品の中から、「インターナショナル賞」と「フランス国内賞」が選出された。次ページでは、6つの「インターナショナル賞」と、日本を代表する美容ジャーナリスト、エディターらにより選出された「日本賞」の PRODUCTS を紹介します。

marie claire
STYLE PICKS

1. Hermès 水彩画のように繊細なタッチの花々に魅せられる上品なストローハット。これからのシーズンに欠かせないアイテム。帽子「ハーバー・ブルーム」¥130,900（エルメス／エルメスジャパン）

2. Bottega Veneta 百花爛漫。50を超える立体的な花モチーフを丁寧にイントレチャードに編み込んだお花畑バッグは、ハンドクラフトを極めたアートピースのような逸品。バッグ「ミニ カバ」[W20×H15×D12cm] ¥4,510,000（ボッテガ・ヴェネタ／ボッテガ・ヴェネタ ジャパン）

3. Burberry 上質なシルクのスカーフは首元や手元、ヘアのリボン、バッグのアクセサリーなど、様々な部分に使える万能アイテム。スカーフ「キャスケーディング フラワー シルク スキニー」[180×8cm] ¥36,300（バーバリー／バーバリー・ジャパン）

4. Saint Laurent ヴィンテージ感のある立体的なフラワーモチーフを全面にあしらったゴージャスなバッグはフェミニンにもモードな装いにもマッチ。バッグ「ジェイミー チェーンバッグ」[W25×H15×D7.5cm] ¥429,000（サンローラン バイ アンソニー・ヴァカレロ／サンローラン クライアントサービス）

5. MANOLO BLAHNIK イタリアのトリノ王宮庭園にインスパイアされた繊細な花の刺繍をメッシュ素材に配した、優雅でロマンティックな唯一無二の一品。靴「ジャルディーノ」[H10.5cm] ¥253,000（マノロ ブラニク／ブルーベル・ジャパン）

6. Roger Vivier フラワーモチーフをカッティングしたレースのようなレザーが美しいシューズで、上品かつ快適な履き心地を叶えて。靴「トレ ヴィヴィエ レザー ストラップ バレリーナ」[H2.5cm] ¥240,900（ロジェ ヴィヴィエ／ロジェ・ヴィヴィエ・ジャパン）

7. Marie-Hélène de Taillac ラベンダークォーツを手彫りし、日本に馴染み深い梅の花をかたどったリング。可愛らしい一輪で手元を彩って。リング「スモール」プラム・プロッサム」リング「ラベンダークォーツ×イエローゴールド」¥632,500（マリー・エレーヌ ドゥ タイヤック／エム・アッシュテ）

Loewe ワイヤーフレームの上に、フローラルプリントのシフォンドレスを重ね、立体的なフォルムを表現したモードなルック。ドレス[参考商品] サングラス¥67,100 靴[参考商品]（すべてロエベ／ロエベ ジャパン クライアントサービス）

Prada ヴィンテージ感のある花柄が愛らしいドレス。ストラップや裾に形状記憶糸がしらわれ、自由に表情を変えられるデザインがモダン。ドレス¥429,000 靴¥176,000【ともに予定価格】（ともにプラダ／プラダ クライアントサービス）

Full Bloom

フラワーに囲まれてロマンティックな季節を謳歌

久しぶりに華やかなスタイルがトレンドに復活した今年は、フラワーモチーフが再注目。ノスタルジックな色彩のドレスや花々が咲き誇る主役級の小物など、最新フラワーアイテムをラインナップ。

styling: Mutsuko Matsukawa
text: Miyuki Kikuchi

Prix Japon

各国の『マリ・クレール』でも本国に倣い、独自の審査団を設けナショナル賞を選定。2025年度「日本賞」に輝いたのはこの4製品。

photo: SHINMEI(SEPT)

DIOR

ディオール
ディオールスキン フォーエヴァー スキン
パーフェクト スティック

メイクアップ賞

スティックを肌に滑らせることでクリームがパウダーに変化するテクスチャー、薄膜なのにうるおい&カパーカも文句なし。本国とのダブル受賞。

審査員コメント●「簡単に使えるのに、仕上がりは完璧！毛穴レスなセミマット肌が一息続く」(倉田)●「肌に瞬時に溶け込み、ノイズだけが消える。それでいてどこまでも自然」(松本)●「汗や皮脂に強い、さらっとしたエアリーな質感と満足感のあるカパーカ。持ち運びできるハンディなパッケージはお直しにも最適」(松井)●「フィット感も快適でつけていることを忘れてしまいそう」(宇野)●「まるで美肌フィルターをかけたような肌にぱっとなれる」(石井)

ディオールスキン フォーエヴァー スキン パーフェクト スティック 全6色 各¥7,370 / パールファン・クリスチャン・ディオール

CLARINS

クラランス
ダブル セラム ADC
スキんケア賞

化粧品では世界初のダンクエクセスを配合。肌ストレスを跳ね返し、美肌の必須成分を呼び覚ます、全方位エイジングケア美容液。

審査員コメント●「朝も夜も」調子いい、昨日も今日も「上向き」が続く、やめられない」(松本)●「ハリ、ツヤ、うるおいなど1本で大人の肌を多面的にサポートしてくれる」(宇野)●「7対3という黄金比バランスで配合された水分と油分が、ピュアなまま肌へ、植物のパワーが、乾燥やエイジングが目立つ肌を確実に立て直す」(倉田)●「肌にずっと馴染んで理想的なうるおい感とコンディションに」(石井)

ダブル セラム ADC
50mL ¥17,380 / クラランス

THE GINZA

ザ・ギンザ
ボディオイル
ボディケア賞

優れた植物を贅沢に配合。乾燥から守りながら、しなやかな肌へと導くボディオイル。菩提樹の穏やかな香りに癒やされる。

審査員コメント●「表面のキメが整い、奥からツヤが生まれ、触れると吸い付く、感動もの」(松本)●「心身が多幸感で満たされるリンデンの香りと、シルクのようにしなやかなテクスチャー。ボディケア以上の満足感が得られる珠玉のオイル」(倉田)●「乾燥肌とは無縁になった」(松井)●「首やデコルテをマッサージするとすっぴんとした透明感のある印象に」(水井)

ボディオイル 80mL ¥22,000 / ザ・ギンザ

DYSON

Dyson
Airstrait™ストレイトナー
イノベーション賞

髪を挟みながら温風で、ストンとしたストレイトヘアが完成。時短で髪のダメージも軽減してくれる画期的な一台!

審査員コメント●「乾かしながら「生まれつきストレイト」が叶う。この仕上がりが、革命的」(松本)●「生え際やつむじがふんわり立ち上がり、テクニクイらずでスタイリングが決まる」(倉田)●「風の方でストレイトにしてくれるので、時短で麗々な仕上がりに」(松井)●「ドライヤーとしてもストレイトアイロンのにも使える、かつてない設計に驚き」(宇野)●「うるおい見事にストレイトに。湿度の高い夏にも重宝する」(水井)

Dyson Airstrait™ストレイトナー(オープン価格) / ダイソン

2025年マリ・クレールボーテ大賞「日本賞」審査員

倉田真由美 くらた まゆみ
●美容ジャーナリスト



35年以上のキャリアを持つ美容ジャーナリストの草分け的存在。女性誌の美容ページや新聞のコラムなどで執筆する傍ら、美容やエイジングケアにまつわる講演などで活躍。marieclairejapon.comで「倉田真由美のBeauty Life」を連載中。

松本千登世 まつもと ちとせ
●エディター/ライター



雑誌やWEB、広告を中心に、美容記事やインタビュー記事の編集・ライティング、エッセイ執筆など、幅広く活動。自ら設立した出版レーベル、BOOK 212より初の絵本「ピンクのカラス」を刊行。英語版「THE PINK CROW」、仏語版「LE CORBEAU ROSE」もある。

宇野ナミコ うの なみこ
●美容ライター



ライター歴25年以上。雑誌やWEB、広告などで美容の記事を執筆中。スキンケアからヘアケアに至るまで幅広い分野を積極的に取材し、わかりやすい文章に定評がある。

石井美保 いしい みほ
●美容家

麻布十番にあるトータルビューティーサロン「Riche」オーナー。エイジレスな美貌と、美容に関する深い知識を活かし、多方面で活躍中。

松井里加 まつい りか
●メイクアップアーティスト

2000年よりニューヨークで活躍し、2006年に帰国。広告やモード誌、セブリティのメイクを担当するほか、ブランドのコンサルティングも行う。2022年よりスキンケアブランド「SELALY」を手がける。

水井真理子 みずい まりこ
●トータルビューティーアドバイザー

エステティシャンの経験からスキンケアアドバイザー、コスメの選び方など幅広い年代の雑誌やWEBで活躍中。

marie claire

Prix Internationaux

2025年度の「インターナショナル賞」に輝いた、最高峰ビューティアイテムをピックアップ。

photos: Estelle Rancurel

CHANEL

シャネル
「サプリマージュ レクストレドゥ ニュイ コンサントレ」
官能賞

ヴァニラ プラニフォリアとスウェルティア、さらにクロノペプチドを配合。夜間の肌再生を促す有効成分を凝縮したナイトセラム。フレッシュかつ保湿力のあるテクスチャー、繊細なフローラルの香りも心地いい。

審査員コメント●「疲れているときや肌の調子が悪いときの秘密兵器」— キム・キョンジュ(マリ・クレール 韓国)●「まるで“第二の肌”のようなテクスチャー。軽やかでありながら存在感があり、夜のスキんケアルーティンを一新しくくれた」— ヴァレンティヌ・ベトリ(ジャーナリスト)

サプリマージュ レクストレドゥ ニュイ コンサントレ 30mL ¥107,800 / シャネル

KÉRASTASE

ケラスターゼ
「ユイルスプリム R」
「洗い流さないヘアトリートメント」
ヘアケア賞

ブルターニュ産のカメリア、アルガンオイル、マルラオイルを配合。髪に栄養補給と強化、輝きを与える、洗い流さないヘアトリートメント。リサイクリングラスを使用したボトルへの詰め替えも可能。

審査員コメント●「数滴で得られる多くの恩恵、時代にマッチしたボトルデザイン」— ギ・タカハシ(マリ・クレール ブラジル)●「軽やかでべたつかず、素敵な香り」とサステナビリティへの配慮が際立つ」— キム・キョンジュ(マリ・クレール 韓国)

ユイルスプリム R 「洗い流さないヘアトリートメント」 75mL ¥11,000 75mL レフィル ¥7,480 / ともにケラスターゼ

SHISEIDO

資生堂
「エッセンス スキングロウ ファンデーション」
メイクアップ賞

軽やかで、長時間持続、カパーカと輝きのある仕上がりに。メイクアップ成分をマイクロカプセル化して、美容成分に包み込む新処方を搭載。スキんケアエッセンスが深層まで働きかけ、肌をうるおし、肌色を滑らかに整える。

審査員コメント●「スキんケアとメイクアップの完璧な融合」サラ・ラシード(マリ・クレール アラブ)●「日焼け止めクリームのように心地よく、簡単に塗れて、仕上がりは自然なもの」— ソフィー・ミシャール(バージョン・フェミニ誌)

エッセンス スキングロウ ファンデーション 30mL SPF30 PA+++ 全12色 各¥7,590 / SHISEIDO

CAUDALIE

コーダリー
「レスペラトロールリフト」シリーズ
フォーミュラ賞

自然由来の処方を目指すブランドがさらに進化。ヴィーガンコラーゲンがブドウ由来のレスペラトロールと相乗効果を発揮し、肌のハリを高める処方を実現。サステナブルで高性能な製品ラインナップが好評価。

審査員コメント●「長年にわたる改良、ますますクリーンで女性らしい処方へのこだわり。心から惹かれる逸品」— エマニュエル・ランヌ(コスモポリタン誌)●「驚くほどシルキーなテクスチャーと、魅惑的なアロマの香り」— シモーネ・チェン(マリ・クレール 中国)

日本未発売



DIOR

ディオール
「プレステージ マイクロ ユイル Rセラム」、
「ディオールスキン フォーエヴァー スキン
パーフェクト スティック」
審査員特別賞

ローズオメガ、ヒアルロン酸を高濃度で配合。疲れた肌にうるおいと回復力を与えるアンチエイジングセラム。もう一品は、肌を均一に整えるスティックタイプのファンデーション。快適な使用感でフィルターのように美しい肌が入る。

審査員コメント●「セラムは栄養と輝きをもたらす、スティックは完璧な仕上がりを実現」— マグダレナ・フライ(マリ・クレール スペイン)●「優秀なスティックで、メイクのベースや素晴らしいリタッチにも最適」— ミケーラ・モッタ(マリ・クレール イタリア)

プレステージ マイクロ ユイル Rセラム 30mL ¥34,650 ディオールスキン フォーエヴァー スキン パーフェクト スティック 全6色 各¥7,370 / ともにパールファン・クリスチャン・ディオール

LA ROCHE-POSAY

ラ ロッシュ ポゼ
「メラ B3 セラム」
研究賞

18年の研究成果「メラジリ」成分に着目した美容液。メラニンの過剰を補い、シミの目立たない明るい肌へと導く。さらに抗炎症作用のナイアシナミド配合で最良の処方に。

審査員コメント●「頑固なシミにも効果を発揮」— ハンナ・バクスター(マリ・クレール アメリカ)●「科学、皮膚科、技術の理想的な融合。そして、心地よい香りに拍手!」— フェルナンド・ゴメス・ドセナ(マリ・クレール アルゼンチン)

メラ B3 セラム 30mL ¥9,350 / ラ ロッシュ ポゼ

1.チーク&リップとして1本2役の多機能ジェル。ワントーンメイクで血色、幸福感を感じさせ、透明感のある柔らかな印象に。TWKシン チーク&リップジェル(ジェントルピンク) ¥4,950/FTC
2.この季節ならではのジュシーなツヤ感を、心ゆくまで楽しみたい。唇にふると弾むようなボリュームをもたらし、オレンジブラウンの色味であか抜けた印象に。YSL ラブシャイン オイルグロス 5 ¥4,950(限定販売中)/イヴ・サンローラン・ボーテ
3.日没直前の「ゴールデンアワー」に着想を得たコレクション。太陽と夕焼け、神秘的な空の色をまぶたへと宿して、ハイライトから深みのあるブラウンまで、シーンを問わず活躍する5色。レ ページュ パレット ルガル ゴールデン ¥9,900(5月2日発売)/シャネル
4.その人ならではのマチュアな魅力を引き出すリップから、リラックス感のある柔らかな表情へと導くアプリコットオレンジの新作が登場。唇の立体感を際立たせ、透ける発色で、夏らしい色も気負いなく。インウイリップ 12 ¥5,060(限定販売中)/資生堂
5.熟した果実や夕陽を思わせる深みのあるテラコッタオレンジは、目尻にポイントで利かせても、まぶた全体をふんわりと染め上げて、即、旬な夏顔を約束。インフィニシェイド シングル アイシャドウ 10 ¥3,080(セット価格)/RMK Division

Orange Mood

肌に溶け込む
オレンジで彩る



Soft, Natural Brows

大人の“抜け感”を
眉に宿す



6.日本初、ユニークなクッション型の3色アイブロウが誕生。リキッドが肌の上でパウダー状に変化し、美しい発色が一日中続き、ケア効果もあり、メイクしながら健やかな眉&地肌へと導いてくれる。HBL 3Dクッションアイブロウ 01 ¥3,960/HBL BEAUTY
7.「眉を描く」を超え、目元全体の陰影まで操作できるパウダー。ハイライトやシェーディングとして使えるニュアンスカラーが骨格の美しさを引き立てる。旬なアッシュ系がおすすめ。ルナソル スタイルングアイゾーンコンパクトN 02 ¥6,050/カネボウ化粧品
8.四角い断面の極細タイプで、リアルな毛を一本ずつ描ける。ソフトマットな質感とニュアンスのある発色で、“描いた感”がないのに、確実に眉の洗練度がアップ。眉が薄い人も濃い人も、タイプを問わず活躍。ブロー ペンシル 04 ¥7,920/トム フォードビューティ
9.メイクアップアーティスト水野和子さん考案のブラシは、穂先が10度に曲がっているのが特長。アイライナーをぼかしたり、アイブロウや、目頭のコーナー、コンシーラーにも使用可能。牛革キャップつき。ペントスマッジブラシ 004 ¥5,940/define brush
10.アイブロウサロンでの施術をもとに開発。透けるブラックの発色で、毛のツヤと存在感を高めつつ毛流れをフィックス。産毛も余すことなく捉える直径3mmの極細ブラシが使いやすい。HBL アイブロウ スタイルングマスカラ 02 ¥3,960/HBL BEAUTY

marie claire
BEAUTY

Early Summer make up 初夏を彩る洗練フェイス

新緑の季節、力強さを増す陽射しに映えるのは、初夏ならではのフレッシュなメイク。カバーするのに軽やかな肌つくりと、大人にふさわしいパーツメイクでさらなる洗練へ。

photos: Asa Sato text: Kiriko Sano

今

シーズンは、作り込んでいるのに素肌の生命感や湿度を感じるような、“元からキレイ”を装えるコスメが増えている。ファンデーションは、驚くほどのカバー力とエアリーなつけ心地を両立したクッションが“買い”。ポイントメイクは夏らしいオレンジやコーラルに注目を。どれも半透明の“フィルター”をかけたような発色で、鮮やかな色でもテクニクレスに纏える。最後に、今っぽさの決め手は立体感のある眉。まぶたの“彫り”とつなげ、眉上をハイライトでさりげなく強調すると、光と影のマジックで今年らしい夏顔に。今こそ、普段のメイクのセオリーを少しだけ変えてみるチャンスだ。



Light & Fresh Skin

フローレス肌を作る
クッションファンデーション

1.今春、英国らしい伝統とモダンティを体现した「バーバリー ビューティ」が、ベースメイク、リップ、アイの3カテゴリーで日本上陸。微細なパール入りで内側から輝く肌へ。バーバリー アルティメット グロウ クッション 全6色 ¥9,900/バーバリー ビューティ
2.光を当てたような眩しいまでの明るさを追求。確かなカバー力とケア効果で、気になる肌悩みも夕方までずっと見えなのまま。ライトリフレクティング セラムクッションファンデーション SPF42 PA++ 全8色 ¥8,580(セット価格)/NARS JAPAN
3.点描画に着想を得て、4色で肌色を再現。独自設計のパウダーによって、肌本来の光の反射を活かした、自然な透明感が得られる。ディエム クルール カラー トリックマルチクッションファンデーション SPF25 PA++ 全2色 ¥7,370(セット価格)/ボーテ
4.「ブラダ」を象徴する「Re-Nylon」素材をあしらったモードな装いのケースがスタイリッシュ。しなやかな膜がストッキングのようにフィットし、素肌のような仕上がりに感動。ブラダ メッシュ クッション SPF50+ PA+++ 全4色 ¥11,330/ブラダビューティ
5.ブランド初の「メッシュフィルター」テクノロジーを採用。ムラなく塗れ、メイクの完成度が急上昇する魔法のクッション。ディオールスキン フォーエヴァー イドラ グロウ クッション SPF50 PA+++ 全7色 ¥10,340~(セット価格)/パルファン・クリスチャン・ディオール
6.クッションの“本場”、韓国発のトレンド感と、大人が満足できるハイクオリティを両立。品のある明るいグロウ肌に、リフレクション スキン グロウ クッション ファンデーション SPF40 PA++ 全5色(うち1色ハイライター) ¥6,380/HERA(アモレパシフィックジャパン)

五感を満たす旬の料理でおもてなし
隠れた名所、奥日光へ

THE RITZ-CARLTON NIKKO



〈上から時計回りに〉周辺には日本の原風景が広がる。栃木の伝統工芸が館内をモダンに演出。時間を忘れて癒やされる中禅寺湖ビュースイートからの美しい眺め

雄々しく美しい男体山を望む、中禅寺湖のほとり。四季折々の彩りで魅せる奥日光に佇む「ザ・リッツ・カールトン日光」は、いま鮮やかな新緑の季節を迎える。日光国立公園内という立地を生かし、94室すべてのゲストルームにはプライベートバルコニーを設置。緑側に見立てたラウンジエリアで、自然に抱かれるようなくつろぎの時間を。

名瀑・華厳滝や世界遺産の寺社にもほど近く、心躍る散策の後は、歴史ある日光湯元温泉の源泉から引く、ザ・リッツ・カールトンブランド初の温泉で心と体を解きほぐそう。乳白色の湯が流れる音と硫黄の香り、そよぐ風や木々の香りに包まれる露天風呂、火山岩や高山植物、苔を施した庭園、ラグジュアリーな設えが魅力の大浴場。自然がもたらす癒やしの力を取り入れた独自のトリートメントが愉しめる「ザ・リッツ・カールトン スパ」での体験も、まさに自分へのギフトだ。

そして、ガストロノミーツーリズムで訪れる人々を五感で満たしてくれるのが、中禅寺湖を望むレストラン。「日本料理 By ザ・リッツ・カールトン日光」は、旬の栃木県産食材と熟練の技が生み出す一皿で魅了する。洋食レストラン「レークハウス」では、ミシュランスターシェフの小林寛司氏が監修する、栃木県産野菜をはじめ農産物を主役にしたシーズナルメニューの提供を昨秋からスタート。季節を愛でる喜びに気づかせてくれるひと皿は、この場所を訪れた忘れられない思い出となるはず。都会では得難い極上のひとときを、奥日光で体感してほしい。



「ザ・リッツ・カールトン日光」
住所: 栃木県日光市中宮詞2482
tel: 0288-25-6666
ritzcarlton.com/jp/nikko



日光の“春”が香り立つ
小林シェフ監修 季節のメニュー

「Farm to Dining」をコンセプトに生まれ変わった洋食レストラン「レークハウス」。ガーデンガストロノミーの先駆者で「villa aida」オーナーシェフの小林寛司氏が監修する、春の新メニューが登場。ディナーコース「Season 花風春冷 風土を感じる春の息吹き」(全7品)は、すべてのメニューに栃木の自然が育んだ多彩な食材をふんだんに使用。料理において香りを大事にする小林氏。「旬の料理をいただくのは次の季節を迎える準備と教えてくれた。奥日光の雄大な自然を眼前に望むダイニングやテラスで、春の息吹を感じるコースを堪能しよう。

1.前菜「露の薈 ケール いろいろ米」は、カリカリに炒めたお米に、ケールやふきのとうのフリットをトッピング。仕上げにソースを注いで **2**.旬の生野菜を甘味のあるクレープで包んだ「燻製頂鱈 季節野菜」 **3**.メイン「とちぎ霜降高原牛 大根 干し野菜」、お肉を重ねた大根の食感も味わって **4**.デザート「いちごビーツ チョコレート」。いちごとビーツはジェラートに。希少品種、女峰の繊細な味が際立つ組み合わせ



小林寛司 Kanji Kobayashi
和歌山県生まれ。辻調理師専門学校卒業後、大阪のイタリアンレストランを経て21歳でイタリアに渡り修業。カンバーニャ州ソレントの二つ星(当時)「ドン・アルフォンソ 1890」でパスタ部門のシェフを務め、1998年帰国。和歌山県若布市に1日1組限定のレストラン「villa aida」をオープン。ミシュラン二つ星とグリーンスターをダブル受賞し、「2024年 We're Smart ベストベジタブルレストラン 日本トップ10アワード」では最高位を受賞する。

洋食レストラン「レークハウス」
営業時間: ランチ: 11:00-15:00、
ディナー: 17:00-22:00
tel: 0288-25-5776
春のディナーコース「Season 花風春冷 風土を感じる春の息吹き」¥24,000(税・サービス料込み)は6月初旬まで。

★魚座pisces2月19日～3月20日★お家時間の中で溜まった疲れがきれいに落とされていく暗示。5月25日にはあなたに長年制限を強いていた土星が解除。晴れた気分と共に明確な未来へのビジョンが描かれる予感。



ポリカーボネート製で3.1kgと軽量な限定ハンドキャリーの容量は26Lで3色展開。ロック部分とフレーム部分には、「リモワ」のアイコン、「オリジナル」コレクションのディテールを採用し、取り外し可能なショルダーストラップ付き。内面にも外部のカラーに合わせたライニングが施されている。バッグ「HOLIDAY ハンドキャリーケース」[W50×H38×D18cm] 各 ¥185,900(すべてリモワ/リモワ クライアントサービス)

RIMOWA
ノスタルジックな彩りに心躍る
「リモワ」のポップな
限定コレクション

「リモワ」のアーカイブピースに着想源を得た
限定のカプセルコレクションが登場!
鮮やかな色遣いが目を引き、旅から日常使いまで、
装いのアクセントとして活躍してくれそう。

text: Tomoko Kawakami



アーカイブピースにインスパイアされた
“HOLIDAY ハンドキャリーケース”

1898年にドイツ・ケルンで生まれて以来、旅人たちに愛されるスーツケースの数々を手掛けてきた「リモワ(RIMOWA)」。時代や旅のスタイルとともに進化をしながら、デザイン性と機能性を見事に融合させた革新的なスーツケースは、世界中のファンから絶大な支持を得ている。そんな「リモワ」の長い歴史において、重要な役割を果たしたアイテムが1988年に発表された「der Reisekoffer fur junge Leute(若者のためのトラベルケース)」。

以降、このシリーズの誕生をきっかけに「リモワ」はネオンカラーなどの鮮やかな色合いのスーツケースを発表することとなる。そのエボックメイキングなケースが今回、限定アイテム「HOLIDAY ハンドキャリーケース」として再登場した。現代を生きる旅人たちのために再解釈されたアイテムは、キャビンサイズよりも一回り小さいサイズ感でお目見え。懐かしさもあるヴィンテージの魅力と、現代的な機能性を兼ね備え、目にも楽しいポップなカラーリングが「リモワ」らしさを物語る。

〈右〉1988年に発表されたトラベルケース。このポップな色遣いはその後、ブランドの個性となった



shop list 掲載商品のお問い合わせ先

ア アモレーバシフィックジャパン tel: 0120-929-744
RMK Division tel: 0120-988-271
イヴ・サンローラン・ボーテ tel: 0120-526-333
HBL BEAUTY tel: 070-2654-6196
エドストローム オフィス tel: 03-6427-5901
FTC tel: 0120-35-1085
エムアッシュテ tel: 03-5468-2703
エルメスジャパン tel: 03-3569-3300
カ カネボウ化粧品 tel: 0120-518-520
グッチ クライアントサービス tel: 0120-99-2177
クラランス カスタマーケア tel: 050-3198-9361
クリスチャン ディオール tel: 0120-02-1947
クロエ カスタマーレレーションズ tel: 03-4226-3883

サ クラスターゼ お客様相談室 tel: 03-6911-8333
ザ・モン・ザ tel: 0120-500824
ザ・ロウ・ジャパン tel: 03-4400-2656
サンローラン クライアントサービス tel: 0120-952-746
JW アンダーソン 渋谷店 tel: 03-6277-5277
資生堂お客さま窓口 tel: 0120-81-4710
SHISEIDOお客さま窓口 tel: 0120-587-289
ジミー チュウ tel: 0120-013-700
シャネル カスタマーケア tel: 0120-525-519
ジルサンダー・ジャパン tel: 0120-998-519
セリーヌ ジャパン tel: 03-5414-1401
ダイソン お客様相談室 tel: 0120-295-731
define brush web: definebrush.com

トッパ・ジャパン tel: 0120-102-578
トム フォード ビューティ tel: 0570-003-770
ナ NARS JAPAN tel: 0120-356-686
ハ バイ・バリー・ジャパン tel: 0066-33-812819
バイ・バリー ビューティ カスタマーサービス tel: 0120-878-653
バルファン・クリスチアン・ティオール tel: 03-2329-0618
フェラガモ・ジャパン tel: 0120-202-170
フェンディ ジャパン tel: 0120-001-829
プラダ クライアントサービス tel: 0120-45-1913
プラダ ビューティ お客様相談室 tel: 03-6911-8440
ブルネロ クチネリ ジャパン tel: 03-5276-8300
ブルーベル・ジャパン ファッション事業本部 tel: 03-5413-1050

ボッテガ・ヴェネタ ジャパン tel: 0120-60-1966
ボラお客様さま相談室 tel: 0120-117111
マックス・マラー ジャパン tel: 0120-030-535
マルニ ジャパン クライアントサービス tel: 0120-374-708
ミュウミュウ クライアントサービス tel: 0120-45-1993
ラ ロッシュ ポゼ お客様相談室 tel: 03-6911-8572
ルイ・ヴィトン クライアントサービス tel: 0120-00-1854
ロエベ ジャパン クライアントサービス tel: 03-6215-6116
ロジェ・ヴィヴィエ・ジャパン tel: 0120-957-940
ロロピアーナ ジャパン tel: 03-5579-5182

